

令和2年度第3回南湖公民館運営審議会会議録

議題	1 令和2年度茅ヶ崎市立南湖公民館の諮問に対する答申について 2 その他
日時	令和2年12月15日(火) 午後2時15分から午後3時15分まで
場所	南湖公民館 1階 講義室
出席者氏名	亀山 計次(南湖地区社会福祉協議会) 三觜 健一(南湖地区自治会連合会) 鈴木 葉子(西浜学区青少年育成推進協議会) 鈴木 美佳(茅ヶ崎市立西浜中学校PTA) 渡邊 千奈(南湖公民館利用者懇談会) 井上 正美(茅ヶ崎西浜高等学校) (欠席委員) 新原 徹也(茅ヶ崎市小学校長会) (事務局) 生川 彰博(南湖公民館担当課長兼館長) 後藤 隆(南湖公民館主査)
会議資料	・会議次第 ・資料 令和2年度 各委員からの意見
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	0人

(会議の概要)

○事務局(館長)

ただいまより、令和2年度第3回茅ヶ崎市立南湖公民館運営審議会を開催させていただきます。なお、本日は、新原委員より御欠席の連絡をいただいておりますが、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条第2項の開催要件を満たしております。

また、本日傍聴のお申し出はございません。

それでは議事進行につきましては、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条に会議は会長が招集し議長となるとありますので、これより亀山会長に議事進行をお願いいたします。

○亀山会長

皆さんこんにちは、年末に差し掛かりましてコロナウイルスの感染がまだ拡大傾向にあるということで非常に心配される場所ですが、特にこの年末年始を控えてみなさんいろいろそれぞれの対応にご苦労されているんじゃないかなと思います。早くこのコロナが収束するような形になればと思っている場所ですが、そればかりは自然が相手なので、なかなか難しいというのが現状じゃないかなと思います。お互いに十分気を付けて行かなければと思っています。

では、これから令和3年度第3回の公民館運営審議会を開催したいと思います。開催にあたりまして、従来会議録の署名人を選任していたのですが、茅ヶ崎市附属機関及び懇談会等の設置及び会議の公開等運営に関する要綱に会議録作成上の指示があるのですが、今年9月1日以降の会議からの会議録については、会長の確認だけで良いということになりました。会議録の作成結果についてのチェックは会長が確認をすれば良いというような形になります。今回以降はそうさせていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは本日の主要議題に入りたいと思います。令和2年度の諮問に対して各委員から答申をいただいております。これについて、まず事務局の方から今日の議事の進め方についての説明をお願いします。

○事務局（館長）

議題に入ります前に本日の資料のご確認をお願いいたします。1つ目に「会議次第」です。2つ目に各委員さんからいただいた資料「令和2年度各委員からの答申」です。本日の添付資料はこちら2点となります。皆さんお忙しい中での答申書の作成本当にありがとうございました。委員の皆様は公民館運営のためのいろいろな思いやアイデアを出していただいたこと、本当に感謝しています。今後の公民館運営に生かして行きたいと思っています。

本日は、先日郵送させていただいて、目を通していただいていることと思いますが、各委員さんの答申書を見ながら感想や質問・意見等あればよろしくお願ひします。また、最後にご承諾をいただけましたら、次回の審議会の時までには製本のための仮整版に取り掛かりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○亀山会長

それでは、事前に公民館から配布されている物に、皆さん目を通してもらっていると
思います。各委員さんの立ち位置というものを前提にした意見が諮問内容の中には反映
されているとお見受けしました。従いまして、皆様の言わんとすることはすべてこの文
章の中に入っていると思いますが、せっかくですので一言ずつ各委員さんからこの諮問に
対する感想というか、他の委員さんの意見を踏まえた上でご感想を一言ずつ述べていた
だこうと思いますので、よろしくお願ひします。それでは私から感想を含めて一言話さ
せていただきたいと思います。

私の立場からすると今の子どもの現状を見た上での意見ということになるのですが、
まあ率直に言って時代の流れというのですか、そういう中での違いというのが大きく影
響しているなということを書かせてもらいました。これは子どもの成長というのは社会
を反映する1つのバロメーターとも言われるのですが、私達の育った時代、戦前・戦後、
当時は物が無い時代なので、自給自足という自分たちが物を作って自分たちで使うとか
食べるとか、衣食住を含めて、そういう時代でした。

自分たちで手を加えて生活をする、当然そこには自分1人じゃ出来ない、助け合い
という、地域の助け合いがはぐくまれたということがありました。物を作るということ
でいろいろ工夫をするとか、そういう学習が日常的に行われていたんですね。そういう
時代に育ったのが我々の年代だと思います。

そういう者が年をとった時にいろいろ当時の体験が身について、役に立つということ
がある。現代の社会は大量生産大量消費の時代ですから、今は物があまっていると、そ
ういうふうな時代の子供達、これは自分たちが消費をするというだけで、物づくりの
方にあまり手が回らない。そうなってくるとお互いの協力関係とかそういうものが薄れ
て遊びという物が限定されてしまうというのが現状だと思う。特に遊びの場所を提供し
なきゃ遊べない、何か作ってもらうものがあれば対応しようというような歪な関係にな
っているんじゃないかなということで、これからそういうものを考えていこうというの
が私の基本的な考え方です。

端的に言うとも遊びは人間を作る文化の一つであり、遊びは文化だというやり方で、1
つ考えていただきたいなというようなことで、この意見を出させていただきました。

これは私の基本的な感想・意見でございます。それでは次に三觜さん一言お願ひしま
す。

○三觜委員

最初この諮問をいただいて、実際自分の子ども達が現在そういう立場というか、立ち

位置にいないので、現実的に考え方が乖離^{かいり}している部分があります。もともと私は地域の子どもたちは地域が育てていくという考えがありまして、今、亀山会長が言われたように、基本的には昔は大家族でいろいろ伝統的なしつけだとか等々も含めて、お父さんお母さんがいない時には基本的には祖父母が叱ったり教えてくれたりする。そこも含めてこういうのもあるんだよと、その遊びと伝統行事を自分達のお孫さん等に対して教える機会が昔はあったのだと思います。

今は完全に核家族化していて、両親と子どもしかいないと、そういう中で結局地域のいろいろな伝統的なことが全く伝わっていないということが非常に気にかかる場所です。たまたま一昨年、西浜中学校と公民館と共催という形で地域を学ぶ会と言うものがあり、烏帽子岩の件をやったのですけれど、南湖地区というのは茅ヶ崎市の中では新しい地域かわかりませんが、それぞれの自治会にそれぞれの神社があったり、古くからいろいろ伝わってきている伝統行事・文化の様なものが、今自然の形で風土として流れている。

ただ、多分一番大きな点は、一昔前は南湖地域はほとんど漁師とお百姓さんだけで地元で生活されていて、いろいろな問題も地元の皆で相談して地元で解決していった。子どもたちもそういうのを目の当たりにしているので見て育ったと思うのですが、戦後特に我々の時代からお父さんお母さんが外に働きに出ていて、家にいるのは土日くらいしかないというような状態がずっと続いていて、地元の例えば南湖地区もそうですけれどあれだけ賑わっていた商店街等が数軒しかない。今後はそういう方向にいくんだろうというのが1つと、昔ながらの文化とか伝統的なものを前は中学と共催でやっていたようなことを公民館が仲立ちになって続けていってほしい。というふうに切に思っております。その辺のところを中心に書かせていただきました。

○鈴木美佳委員

私の立場は中学生の保護者としてこちらに参加しているんですが、公民館の行事自体が殆ど子ども事業と生涯学習のことで、どうしても日中時間のある方がメインで利用されていることが多いと感じています。中学校はどうかというと具体的に吹奏楽部が演奏会にご招待いただいたりして、それはとても良い機会だと思っています。

部活動をしている子どもたちに、年に1・2回のそういう機会があったことが、とても励みになったと、そういうふうに感じております。

本来、公民館と子どものかかわりという諮問についてはちょっと私のほうでは難しいのかなと思ひまして、今良くニュースなどでも耳にすることがあったので、子どもの居場所づくりということで、そちらの方を深く考えてみました。公民館は誰でも自由に出

入り出来る場所で、もちろん子ども応援丸という学習出来る場所としても開放していただいています。そういう中で、家も学校もちょっとなんとなく居づらいなということで、ふらっと来ても暖かく迎えてくれる場所となってもいいのかなと少し感じました。

少し漠然としておりますが、今の私どもの子どもたちの年代はそういう何か自分たちの居場所を作ることが、会長が言われたようになかなか簡単に器用に自分で遊びが作れなかったり、自分で何かを作り出すということが大変苦手になっていると思います。

何かその器がそういう場所が、漠然としてでいいので中学生等もちょっとフラッと寄れるような場所に少しでもなっていけば嬉しいかなと感じ、今回答申とさせていただきます。

○井上委員

茅ヶ崎西浜高校の井上と申します。よろしく申し上げます。私は高校教師の立場ということで公民館の遊びにかかわるといふ部分で書かせていただきました。先程からお話にありますように、現代の子どもたちを取り囲む環境が我々の時代とは一変しております。やっぱりSNS等あるいはテレビゲーム等いろいろなことで環境が変わってきているという中で、子どもたちの遊びの質が大分変わってきているというのは現実として見つめていかなければいけないと思います。

確かに経験的な遊びであるとか創造的な遊びというものは大変重要であり、子どもの成長段階で不可欠なものであると思いますが、それを今のこの世の中で求めていくのは限界があるというところを感じております。やはりその人間関係が苦手というか、コミュニケーション不足というところで、一人で育ってきている子どもたち、高校となりますと小中と6年間と3年間終わって、ほぼ次の段階としては大学・社会人というレベルになるんですけれども、高校は小・中より大きいコミュニティの中で対応しきれない生徒が多いような気がします。それは本校に限らず各校の公立私立でも同じことが我々に知らされているところです。

教育相談というシステムで、学校に馴染めない生徒の原因は何かと分析しますと、やはり他人との人間関係が作れないというところが大きな原因になっているということです。学校という集団から目の届かないところに退いていってしまうというところが多いような気がします。

私も30年以上この職に携わっていますが、30年前と今とでは、やはり全然生徒の質も変わってきていますし、生きる力というのが大分弱くなっている気がします。

令和4年度から新学習指導要領ということで、国の方からも生きる力を育てなさいということが、各校一斉に来ておるわけですが、学校の教育だけでは限界があるのではな

いかというところで、答申の方でも書かせていただきましたが、学校も地域と連携を図りながら、子どもを育てていくというのが大きな目標となっていますので、公民館が少しでも一緒に子どもの居場所になって、昔ながらの遊びの質プラス現代の遊びの質を融合させた形で柔軟的に大人の方も考えて行かないとなかなか難しい部分があるのかなというところを個人的には感じております。

答申の方にも書かせていただいたのですが、たとえばeスポーツやそういったSNSの遊びの中で、それを逆に地域の強みとしてチーム茅ヶ崎で大会にでるとかそういったことを新しい視点でも遊びそれから公民館の居場所というものを考えて行ったほうが、これからの子ども達に対しての、より居場所としての幅が広がってくるのかと思って答申の方を作らせていただきました。私の方は以上になります。

○渡邊委員

南湖公民館の利用者懇談会から参加しております渡邊ですよろしく申し上げます。皆さんの答申書を見ての感想は地域の歴史伝統を考えながら書かれているなというのを本当に思ひまして、私はというと利用者ですので普段使っている立場、それから小学生の子どもがいますので、子どもを持つ親としての立場で本当に目の前のことを書かせていただきました。

思うことは公民館には本当にお世話になっていて、意見を言うというよりも本当にありがとうございますというのを書きたかったのですが、ただその中でも公民館の良さというのを知っている親子だけが利用しているというのを少し感じておまして、友達と子ども同士で参加したい、公民館で良いことをやっているということは皆気づいていますが、いろいろな事情で申し込みを出来ない親もいます。

もう少し申し込みの方法等を変えて、誰もが参加出来るようになると、もっと公民館が子どもにとって居心地のいい場所になるだろうと思うし、地域としても発展していくのではないかなということを感じます。以上です。

○鈴木（葉）委員

推進協から出ております鈴木葉子です。公民館と推進協ということで子どものイベントですとか子どもの行事について多く共催しているものがあって、私も多分20年ぐらい公民館の行事に関わっているじゃないかなと思っています。だからどっちかという利用者というよりも行事を企画する方の気持ちが大きくなってしまったのかなと思います。

ここにも書かせてもらいましたが、長く続いているドキドキチャレンジという行事は

子どもが学校ですとか家庭等で、ちょっと難しいかなと思えるものを、子ども達に少し無理をさせて少し頑張ってもらって、何かをさせようというのが最初の発想でした。それが出来る公民館ならでは社会教育ならでは、家庭教育にはちょっと難しい、また学校教育にはちょっと手が届きにくいとか、そういうカバーしきれないようなところを是非公民館の行事でやっていただきたいという思いがします。

答申書にも書かせて頂いたのですが、居場所というのは物理的に安全な居場所というのが一番なのですが、そういういろいろな経験をさせることで自分の事や他人の事が良く分かるような子どもに育ってもらいたいという気持ちから、自分の中で自信というか居場所というのを是非この時期に見つけてもらいたいと思います。

親御さんとかかわる機会が非常に多いのですが、公民館や社会教育の会議でいつでも問題になるのが、現役世代って言うんですか、子ども達行事に自主的な参加が少ないということなんですけど、私は個人的にそれは時間もないし、そんな興味もない、そんなにあまり考えてもないのかないつも思ってしまうのですが、子ども達の行事は子どもだけというところはありますが、それでもお迎えに来てもらったりとか、帰って家で話を聞いたりすることで、その先時間が出来た時に公民館の敷居が少しでも低い、社会教育の入口になっているよというのを感じてもらうのに役立ってくれると凄くいいなと、いつもその親御さん達がお迎え等に来てくれるごとにそう思っています。

やっぱり先ほど皆さんがおっしゃった様に今の家庭の教育は、生活の中で昔は普通にやっていたけど今は出来ないこととか、そういうことを体験したり教えてあげたりして、ちょっと大げさなのですが、学校教育と家庭教育のちょっとやり残している隙間みたいな部分を埋められるような場所になってくれるといいなと思っています。以上です。

○亀山会長

どうも、ありがとうございました。ただいま皆様からひととおりの意見・感想が述べられましたが、それぞれの立場によって書かれたものについて話がされたと思います。全体的に何か皆さんの方から、この際一言というものがあればお伺いいたしますけれど何かありませんか。

私の感じなんですけど、まあ感覚的なもので入るしかない部分もあるわけなんですけど、今、居場所という問題を提起しても、今の社会の中で一番問題なのは、あれをやっては駄目これをやっては駄目、何かやる時に必要とする条件が多すぎるんじゃないかと思っています。

ある意味コロナ禍になってみると子どもってというのは本来、規制するんじゃなくて自由奔放に、それが本来の子どものあり方なんだと気づく、そんな中で自分たちがや

つちや駄目だなど、こりゃ危ないんだとか、こりゃいいことなんだとか体で覚えるのが子どもの成長だと思います。

今は何か遊びを作っただけでも、この遊びは駄目だよと駄目が先に来てしまう。だから枠組みの中の居場所を作っただけとしても、本当に狭い中での成長しか出来ないんじゃないかなという気がします。

私の意見ですけれども、皆さんどう感じますでしょうか。今、そういう居場所を作ったりしても、確かに子どもを預かる立場にしても、出来るだけ安全にということがあることは分かります。

もう一つは、居場所づくりを作る側としては、子どもの気持ちで遊びを提供しているのかどうかということがあります。実際にそういう事を、少し考えなければいけないのかなと思います。何を子ども達が遊びとして求めているのか、それを見出すのが難しい部分であると思います。そこを少し感じます。

どうですか三觜さん。

○三觜委員

実はですね、浜見平の開発が進行している時に、城山公園が広がっていくことになるのですが、城山公園の一部の名前をちょっと忘れましたが、要するにウォーキングが出来るようなスペースにしたら、たとえば木登り、泥遊び、場合によっては火を使うというような提案がされました。

世田谷か渋谷かが発祥で、どこかのNPOが主体でやっているところがあるのですが、要するに行政は自分からは言わないで、地域の意見としてそういうのが出てきたら、何となく動けるんじゃないかなというところがある。実は私も昔振られた時がありまして、1回検討してみることにしました。しかし結果的には何か事故があった時に誰が責任とるだとか、要するに^{のこぎり}鋸だとか場合によってはナイフなんかも使うような遊びになるということで、泥遊びをするようなぬかったスペースを作って、とりあえず何か人工的な物とは違う自然の公園のスペースを提供だけして、子ども達を自由に遊ばせたらどうかという提案があって考えたことがあるのですが、総合的な意見を聞くとやっぱり踏み込めない、いわゆる危険な事故があった時には誰が責任とるのかとか、かなり多くの人子ども達の遊びを見てないと管理しきれないんじゃないかだとか、どうしてもそんな感じになってしまい、自由な体験が出来るようなスペースそのものが、なかなか作りづらいのかなということを実際に深く感じます。

そういう居場所作りをすること自体はいいんですが、それを作ること自体、人口的な話だろうし、何となくおっしゃるような形で、自然な遊びが出来る公園を復活した

形でやってみたいなというところはあるんだろうけど、総合的な意見を聞いていると、なかなか乗り込めないし、現実的にやっていいのかどうかという事と子ども達がそれに乗ってくるかというのと、そのようなどこまで考えると何も出来ないなというのが実感としてあります。

○亀山会長

先ほど井上先生の話で、高校生ぐらいの年齢になってもコミュニティがうまくとれない生徒がたくさんいるということでしたが、そのへんの改善策はありますか。

○井上委員

今の子ども達は、生まれた時から現在の環境であって、周りにはテレビがあってテレビゲームがあってというところで育ってきている。我々の年代というのはそういうのは全くなかった、だから会長の書かれていた形での遊びというものが存在する。彼らにとっては今の遊びが遊びなんですね、彼らにとっては他人は関係なく、1人で遊ぶということがもう遊びになっているというのを感覚で感じます。

あえて友達と或いは大人と人と関わらなくても遊べるよという育ち方をしてしまっているのが根本的に解決していくのはかなり難しいんじゃないかなと思います。

ですから当然そういう機会を与えてあげて、新たな発見をさせることをやめてしまうと、発見することがなくなってしまうので、大人としては当然粘り強くそういう体験をする遊びというようなものを提供しつつづけなければいけません、それ一辺倒だったら今の子ども達はそれでもう拒否を始めてしまう。面倒くさいからいやだとか汚れるからきらいだとかいうところが正直あると思います。

ですからそういう経験を提供しつつも、今のお子さん達が思っている遊びというものを違った視点から捉えて、何かこう達成感を与えることが今の遊びの中で人間関係の交流が出来るというようものでないと彼達は受け入れないと思うんですね。少し答申にも書かせてもらったのですが、今の遊びを1つの遊びのツールとして捉えて、そこを逆に利用しながら彼らに達成感等を味あわせたり、異年令間のことを高校生、中学生、小学生の間でいろいろな形での交流が出来るような場も少しずつ考えていかないと、やはり子ども達は例えば公民館であるとか遊びの場というものに対して目を向けてこないのかということを毎日感じてはおりました。

確かに彼らは遊び方を知りません、正直ひとつの遊びしか知らないなので、そこをどう教えつつ、どう伸ばしていくかということも1つの今後考えていかなければいけないと

ころなのかなと思います。それを伸ばしつつ、社会的な批判とかルールであるとかそういうものを教えていく必要が出て来たんじゃないかなということを思っています。

○亀山会長

鈴木（葉）委員は公民館のイベントではドキドキチャレンジ等でいろいろな事業をやってもらっているのだけど、今の子どもは同じ学年だとかの友達はあるけど上下の中ではほとんどないと思う。

昔は小学生だったら1年生から6年生まで、中学生だったら1年生から3年生までで、全体の中でみんな地域でまとまったり遊んだりしたものです。でもその中に上下関係があったんですね、逆にそれがお互いの立ち位置になって協力しあったりして何かをすることがありました。今は同学年でしかほとんど日常では遊べないと思うんですね、

○鈴木（葉）委員

ドキドキチャレンジ等もそこを考慮して地区割にしています。そこには昔からのお友達ではない、他の地域から参加するお友達がいるんです。その様な中で初対面という感じのグループをいくつも作って、一番上の方の子にリーダーをしてもらって、それもその場でじゃんけんの結果でリーダーお願いねという形で行います。

最初はやっぱり違和感があるのですが、途中から知り合いだったのって聞くと、今日初めてとか言って、やはりそういうことをする機会が、普通に何もしてないずっと学校と家を往復するだけの生活だと見えてこないと思います。普段なかなか機会がないので、そういう機会とか経験とかをどこかで、なるべく小さいうちにきっかけとしてそういう場を経験させてあげるのは、公民館の行事等の力が大きいのだと思います。

今、すごく家庭によっていろいろ差があるということを感じます。家庭の方針とか教育とか環境とかももちろん違うのですが、考え方とか本当にすごい差が大きいなという、それはもう10年20年子どもと触れ合っていて、どんどんその差が大きいなと感じるところです。

なので、そういうものを取り除いて、みんな同じような状況で初めての子ども達でも全然知らないスタッフもみんな知らない大人ですので、そういう機会というのがやっぱり小さい頃から数多くあると、少し自分の外のこととかそういうのに気が付くっていうか、気が付かないで大きくなってしまいう子ども達って結構いるんじゃないかなと思うのですけれど、そういったチャンスを与えてあげられるような機会が多くあるといいと思います。

○三觜委員

私は中学の評議員をやっていますが、今現実に子ども達の動き方っていうのが実際には良く分からないのですが、先生に話を聞いてみると、ほぼ平均化して特出する子どももいないし落ちこぼれる子もいないと、現実的にはちょっと違うかも知れないが、皆で意見を出し合えるような場をなるべく設定してあげることが大切なのではないかと思います。

平均化して皆で意見を出し合うとかそっちの方が今の流れとしては重要だと、あまり個々の学力をアップするとか個人の特徴をもう少し伸ばしてやるようなそういうところまで現実的にはこまかい教育指導だったり出来ない、どうもそのような感覚のようなので、そうするとやっぱり、学校がそういう方針なのを例えば公民館で何か競技があった時に1番2番3番と順位を付けられるかなんていうと、ちょっと、またそれも問題が起きたりすると思います。

その辺がいいのかわからないけれど、学校は、そういう特徴のある指導なんかできないでしょうけど、順位だとか学力のアップだとか個性だとか、そういうものが学習準拠の中でちょっと薄れてきているというか、あまり気にしないでいいんじゃないかみたいな風潮になっているのが、子ども達の中でもそういう環境がずっと続いて来ているのが、良いか悪いかは別として、競争してあいつより頑張ろうとか、運動部に所属していないと、そういう状況立場になって来ているのではないかなと思います。

運動部にしても、鉄拳制裁が駄目だとか、口で言いすぎればパワハラだとか、そういうことは現実的に出てきているというのを社会教育につなげられるのかどうか、ということ少し何とかならないのかなと思います。

○亀山会長

今、皆さんから意見を出していただきましたけど、館長の方で何かありますか。

○事務局（館長）

皆さん、4月からありがとうございます。私も4月に公民館に赴任して、何も公民館らしいことをしていないんですけど、まあコロナコロナで振り回される年になってしまいました。また、今日お集まりいただいている皆さんにとっても前代未聞の年になったと思います。皆さんの答申書を読ませていただくと公民館が主催事業を行っていてロビーを開放している時の子ども達の楽しんでいる姿がですね、手に取るように分かってですね、思うところが何かほこっとしてるところがあります。

そういう姿を今見れないところが出来ないのが、折角公民館に赴任していながら、凄くさびしいことだと思っています。また、子どもと公民館のかかわりについて考えて見るとですね、子どもの将来にとって地域との触れ合いがいかに大事かを考えていただいているのが良くわかってですね、その橋渡しとして公民館があることを良く感じさせられています。また、2月の末にですね、会議がありますので、また、その時にも意見を持ち寄って、皆さんと論議したいと思います。

○亀山会長

どうもありがとうございました。いろいろご意見を出していただきまして、そういうものを参考にして、ひとつ答申の内容をまとめていただきたいと思います。全体的に何か、皆さんの方でこうしてほしいということがなければ、この内容でまとめは公民館の方でしていただくということになっております。それをまた後で参考に観ていただきたいと思います。そういうことでいいですか、どうもありがとうございます。

それでは答申内容の意見交換はこれで終わりたいと思います。

議題2のその他について、公民館の方から説明をお願いします。

○事務局（館長）

その他についての議題は、次の公運審の日程についてだけになりますが、2月25日の木曜日か26日の金曜日のどちらかで準備しているのですが、共に時間は午後1時からとなります。いかがでしょうか。

○亀山会長

今回の公運審日程ですが、2月25日木曜日か26日金曜日ということですね。

○事務局（館長）

それでは26日の金曜日ということはいかがでしょう。

○亀山会長

それでは、2月26日金曜日のご予定を押さえていただけるようにお願いします。

その他、皆さんの方で何かご意見等ございませんか。ないようでしたら、審議会の方を終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

これをもちまして第3回の公民館運営審議会を終わります。皆様ご苦労様でした。